

仏教のジャンピングポイント

ノルウエー・オスロにある科学アカデミー高等研究所。現在ここで、世界 11 カ国の研究者が集まり、ひとつの仏教古文書の研究にとりくんでいる。

アフガニスタンのバーミヤンの大仏が爆破されたところ、その近くの洞窟に逃げ込んだ難民によって発見されたというその古文書は、その後、幾人かの手を経たのち、最終的にノルウエーの富豪の手に渡った。時価数億円といわれている。

椰子の葉や樺の樹皮などにカロシュティー文字などによって経文が記された古文書は、断片を含めて 1 万点にのぼる。

この古文書が注目を集めているのは、世界最古の大乗仏教ではないかと見られているからである。大乗仏教がいつどこで始まったかについては、これまで謎とされてきた。これほど大量の文献がまとまって出てきたのははじめてのことである。

これらが大乗仏教にほぼ間違いないこと、そして 2 世紀のガンダーラにおいて制作されたことがほぼ特定され、その研究成果が次第に明らかになってきている。

調査にあたったカロシュティー文字研究の第 1 人者リチャード・ソロモン氏は、興奮を隠さず、「ガンダーラは、仏教のジャンピングポイントの地だ」と語っている。

インドで生まれた仏教が、2 世紀にガンダーラで大乗仏教へと変革していたのである。クシャン王朝の時代、ガンダーラの地でいったい何が起きていたのだろうか。

03 年 8 月 27 日 午後 5 時 新疆時間午後 2 時

野口 信彦